


防災専門学科の設置(1/2)

地域名	兵庫県神戸市	「より良い復興」を実現するための重要な観点	防災教育
設置の背景・目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 阪神・淡路大震災の教訓から、命の大切さや人とのつながりの重要性を学ぶ場が必要との考え方や、高等学校改革の一環として進められていた特色ある学校作りの両面から、平成12年3月から2年間の準備期間を経て、平成14年4月に全国で初の防災専門学科として設置された。 ● 従前から、同校において総合的な学習の時間などを活用した防災教育への熱心な取り組みが行われていたことも学科創設のきっかけとなった。 ● 学校教員による授業に限定せず、多数の外部講師の招聘や校外学習機会の提供、生徒によるボランティア活動、小学校への出前授業等、地域コミュニティとの交流、及び他校への活動ネットワークの拡大(防災ジュニアリーダー育成)などの取り組みを特徴とする。 ● 防災専門科として独自のカリキュラムを作ることにより、教育する側と学ぶ側の相互に“真剣”に取り組み、その成果を地域社会に還元する基本姿勢が自然に醸成されている。 		
取組みのポイント	<p>① 自然環境と社会環境から防災を総合的に考える専門科カリキュラム編成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全91単位のうち、25～31単位の専門科目を構成している。 ・ 防災全体を広く学び、特にまちづくりや地域コミュニティ、及び心のケアなど、人と人、地域社会や自然環境とのかかわりに着目した学科構成を特色とする。 ・ 授業は、外部講師による授業や校外学習などのインプット機会と、ボランティア活動や国内外における防災交流などのアウトプット機会の両面から、生きた防災教育を実践している。 	<p>専門カリキュラム構成のポイント</p>  <p>外部講師 input</p> <p>校外活動 output</p> <p>対外交流</p> <p>地域波及 ←</p> <p>→ 他校への取組ネットワークの拡大</p>	
	<p>② “外部講師”による生きた学習機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神・淡路大震災を多角的に検証し、命の大切さ、人とのつながり、助け合いの必要性を学ぶため、多くの外部講師を招き、年間約20回程の授業を実施している。 ・ 外部講師は、ライフライン関係者(電気、ガス、水道、電話)、救助関係者(警察、消防、自衛隊)、ボランティア従事者(ボランティアグループ、NPO)、防災専門家(大学教授、行政)など多岐にわたる。 	<p>外部講師(CODE(NGO))</p>  <p>外部講師(兵庫県警)</p> 	
	<p>③ “校外学習”による防災への深い理解と動機付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験を重視した様々な校外学習の機会を設定している。 ・ 過去の災害について学び、復興まちづくりについて考える機会として、神戸市の新長田地区や鷹取地区の復興の様子について、関係者から説明を受けながらフィールドワークを行っている。 ・ また、様々な関係施設の見学、消防学校体験入学などを通して、語り部の話や専門家の説明など、現場に行き、生の声を聞くことで理解を深める工夫がなされている。 	<p>復興まちづくりのフィールドワークの様子</p> 	

防災専門学科の設置(2/2)

④ 交流の広がりによる防災教育の地域波及

- 小学校との交流では、「防災出前授業」として、外部講師による授業や校外学習などにより学んだことを小学生に伝えることにより、受身姿勢から能動的に学ぶ姿勢が作られている。
- 地域コミュニティとの交流では、夏祭りの実施準備を生徒が全面的に支援する他、もちつきなど様々な地域行事への参加、募金活動や有志による多様なボランティア活動が行われている。
- 県内の特別支援学校で生徒が防災の話をするなどの防災交流活動も行われており、生徒が自主的に手話教室に通うなど、防災に関する意識向上機会の一つとなっている。
- 平成24年度から特別支援学校と防災に係る連携を図る事業を企画し、県立こばと聴覚特別支援学校、県立芦屋特別支援学校、県立視覚特別支援学校、県立神戸聴覚特別支援学校と協力して、交流活動の実施に係る事例集も作られている。

多聞東小学校との交流活動

3年生	安全マップづくり
4、5年生	生徒による出前授業:8班(5人/班)×8分
6年生	防災クイズラリー等のイベント招待

小学校出前授業



⑤ 防災ジュニアリーダー育成事業の企画実施

- 同校の取り組みを県内外に波及させていくことをねらいとして、平成24年度から兵庫県中学生・高校生による「防災ジュニアリーダー育成事業」を主管校として企画実施している。平成27年度は県内26校が参加し、参加校は近隣校に活動ネットワークを広げるミッションを持ち帰り、波及拡大を目指している。
- 事業の3本柱は、「防災ジュニアリーダー育成合宿」、2泊3日の「東日本訪問活動」、「全県一斉募金活動」で、11月に報告会を実施。
- 同様に、全国の中高生と県内のジュニアリーダーのミーティングや、全国防災ジュニアリーダー育成合宿も企画運営している。

兵庫県防災ジュニアリーダー合宿



全国防災会議



⑥ 国際理解と交流の機会創出

- ネパールで「地震に強い学校づくり」を行っているNSET-Nepal(NGO)の協力を得て、毎年、生徒と教員が防災サミットへの参加等の交流を行っている。
- 同校の40周年イベント時に、ネパールからNSET-Nepalと現地の生徒を招待した他、四川大地震後の中国やインド洋津波地震後のスリランカを訪問し、数日間の現地でのボランティア活動なども実施している。
- アジア防災センター(ADRC)や国際協力機構(JICA)、国連地域開発センター(UNCRD)が発展途上国の行政官を対象に行う研修に、生徒が参加して、震災体験の発表、環境防災科の教育活動の説明とうの意見交流を実施している。

ネパールにおける交流活動の様子



取組みのポイント